

## 外部有識者・団体からのヒアリングについて (案)

### 1. 選定の視点

本検討会議の議論に多様な意見を反映するため、以下のような観点に留意してヒアリング対象者を選定してはどうか。

- ① 大学入試政策
- ② テスト理論
- ③ 英語4技能の育成・評価
- ④ 思考力・判断力・表現力の育成・評価
- ⑤ 海外の大学入試
- ⑥ 経済的・地理的事情への配慮
- ⑦ 障害者への配慮
- ⑧ 改革を進めている大学の取組
- ⑨ 地方教育行政、高校教員の意見
- ⑩ 高校生・大学生の意見（経済的に困難な状況にある者、留学経験者を含む）
- ⑪ 産業界等の意見
- ⑫ 民間資格・検定試験実施団体、受験産業の意見 など

### 2. 今後の進め方

- ① 5月中旬より、4～5回程度に分けて実施（うち1～2回は長めの会議時間を設定、詳細は今後調整。）
- ② 1人計30分（15分程度でのご発表＋15分程度の意見交換）
- ③ 具体的な聴取項目（別紙案）をヒアリング対象者に提示する。
- ④ 今後適当な段階で、WEBを通じて意見募集を行うことも検討する。

## ヒアリング聴取項目（案）

多様な視点を議論に反映させる観点から、下記のような項目を参考として示した上で意見発表を頂くこととしてはどうか。

### 1. 共通項目（意見発表に当たり、共通に念頭において頂く項目）

- 大学入試と高校教育や大学教育との役割分担（社会との接続も念頭に）
- 大学入試が高校教育に与えている影響
- 大学入学共通テストと各大学の個別入試との役割分担
- 1点刻みの入試の改善の必要性と入試の公平性・公正性の確保のバランス
- 各大学の持つ多様性
- 施策のフィージビリティ（実現可能性とそれに要する時間）

### 2. 個別項目（各人の専門分野に応じて、発表に盛り込んで頂く項目）

- 英語によるコミュニケーション能力の育成・評価
  - ① 大学入試で4技能を評価する理念・意義
  - ② 共通テストの枠組で評価すべきか否か
  - ③ 民間英語資格・検定試験の活用の在り方
    - 大学・受験生にとっての利便性
    - 受検回数制限の是非
    - CEF R対照表の活用の在り方
    - 経済的・地理的事情への配慮
    - いわゆる利益相反に関する懸念
  - ④ 一般選抜以外の選抜区分（AO, 学校推薦）が果たす役割
  - ⑤ 個別入試への国の支援の在り方
- 思考力・判断力・表現力の育成・評価
  - ① 記述式問題を大学入試で出題する理念・意義（どのような記述式問題が推進されるべきか）
  - ② 共通テストの枠組で評価すべきか否か
  - ③ 一般選抜以外の選抜区分（AO, 学校推薦）が果たす役割
  - ④ 個別入試への国の支援の在り方
- 障害者への配慮についてどう考えるか
- 諸外国で参考になる事例はあるか

※ 一問一答ではなく、各人の専門分野に応じて適宜発表資料・内容に盛り込んで頂く（様式自由）。